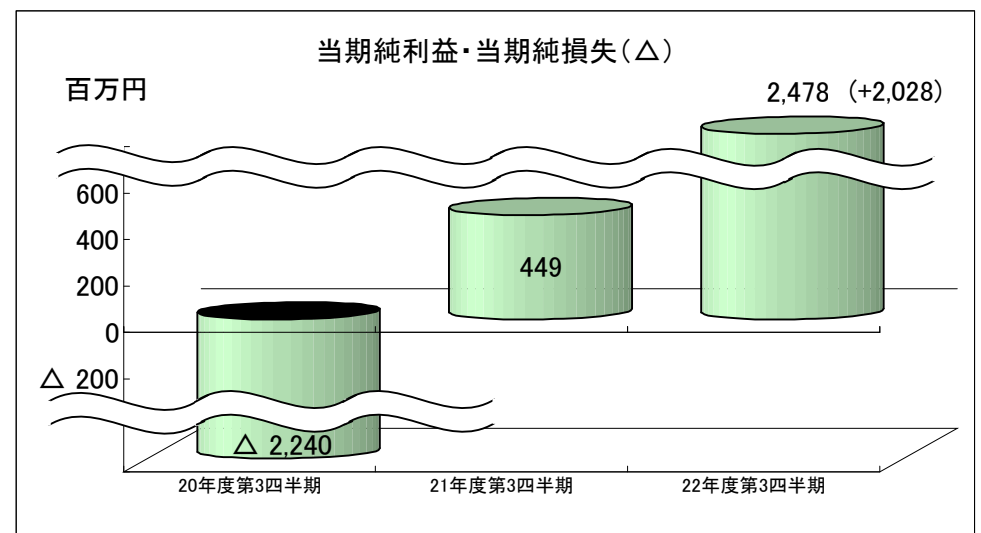
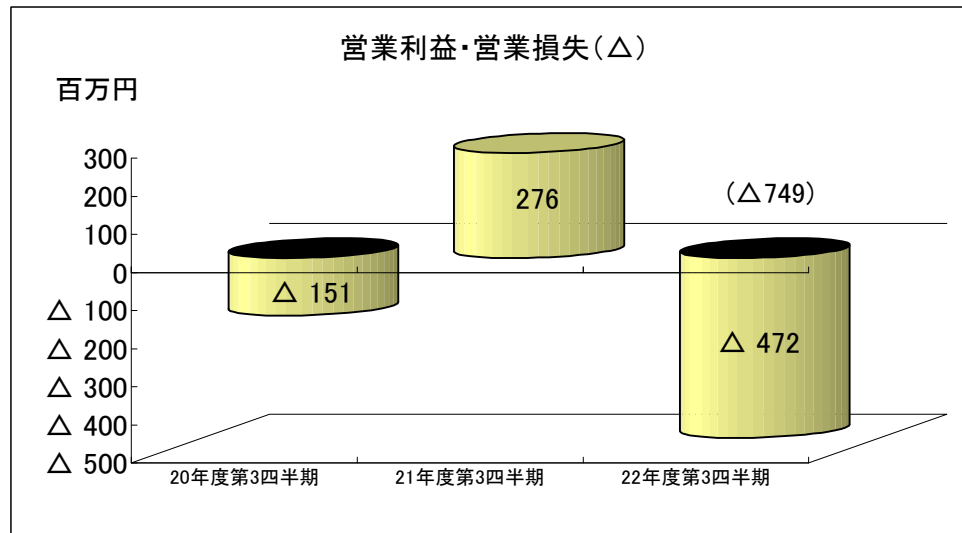
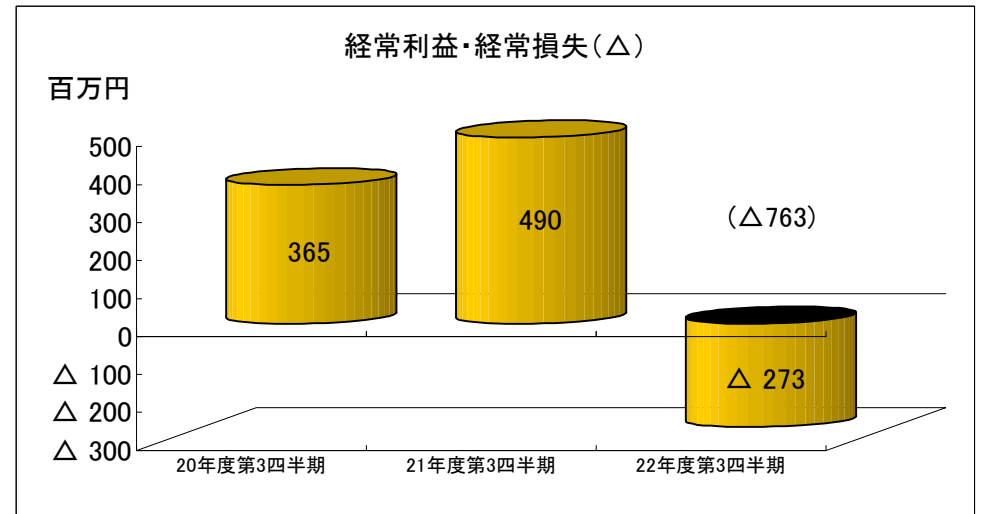
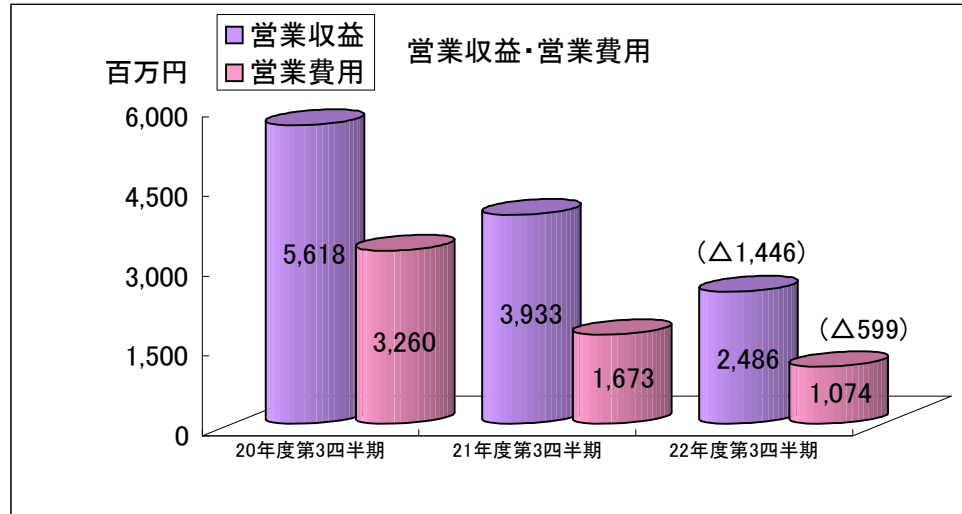


平成22年度第3四半期(累計)決算の概要

(1)収支状況

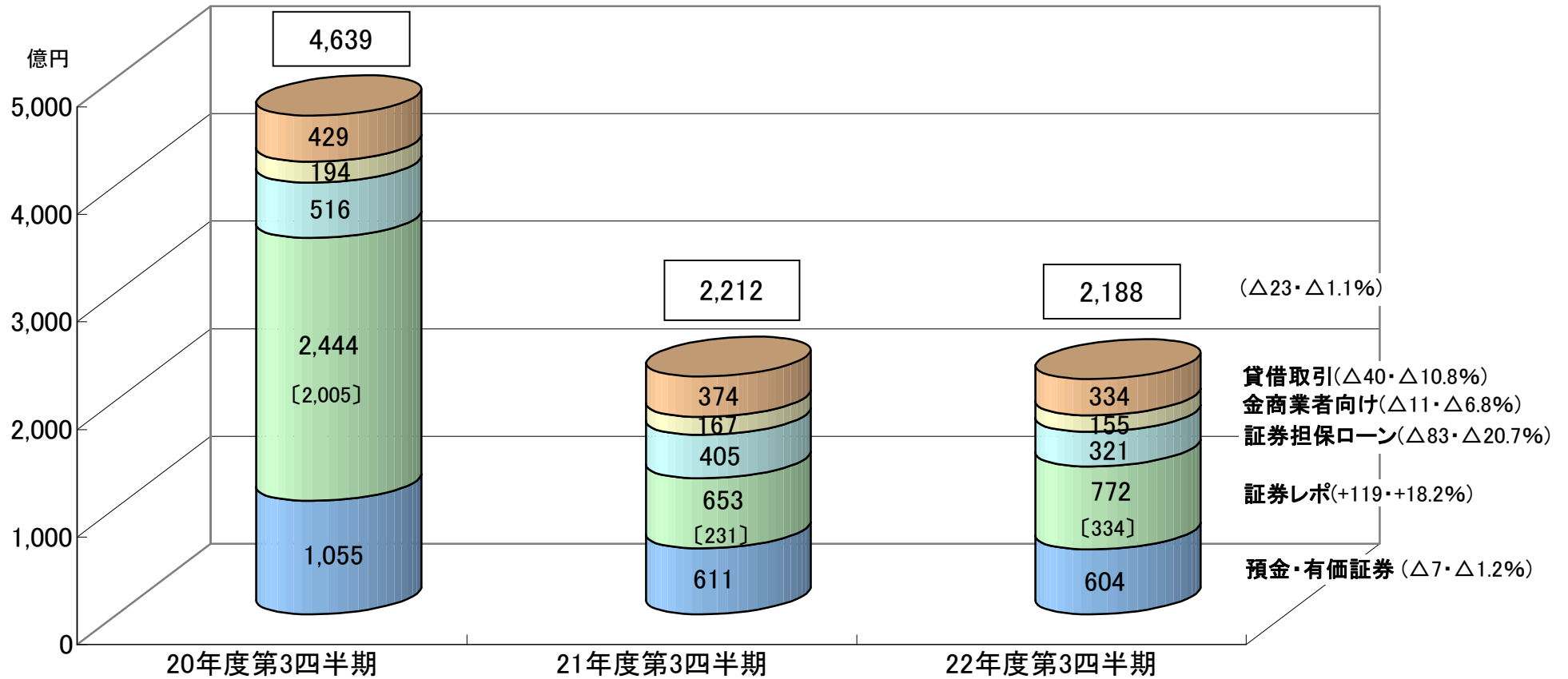
☆証券市場が伸び悩む中、営業収益の減収が営業費用の減少及び一般管理費の節減効果を上回った結果、営業・経常損益は赤字となった一方、当期純損益はリーマン・ブラザーズ証券に対する再生債権にかかる第1回弁済額(2,713百万円)を特別利益に計上したことから大幅な黒字。



(注) ()内は前年同期比較。

(2) 資金運用残高

☆証券市場が伸び悩む中、証券担保ローンの減少を証券レポの増加がカバーする形で、運用残高はほぼ横這い。

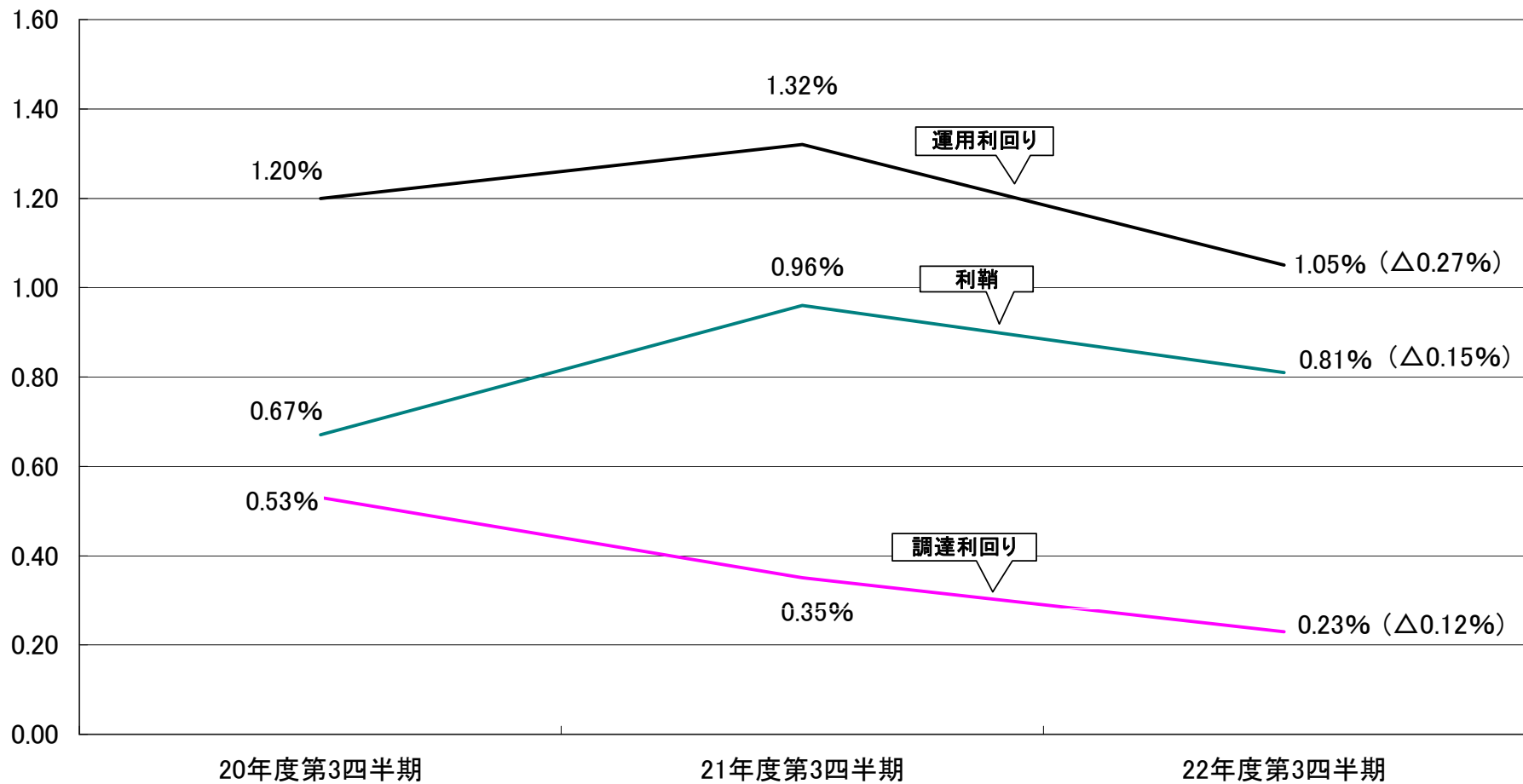


(注) 1 ()内は前年同期比較。

2 平均残高。証券レポの〔 〕は、株券レポ取引の平均残高を内書きで表示しております。

(3) 運用・調達利回り、利鞘

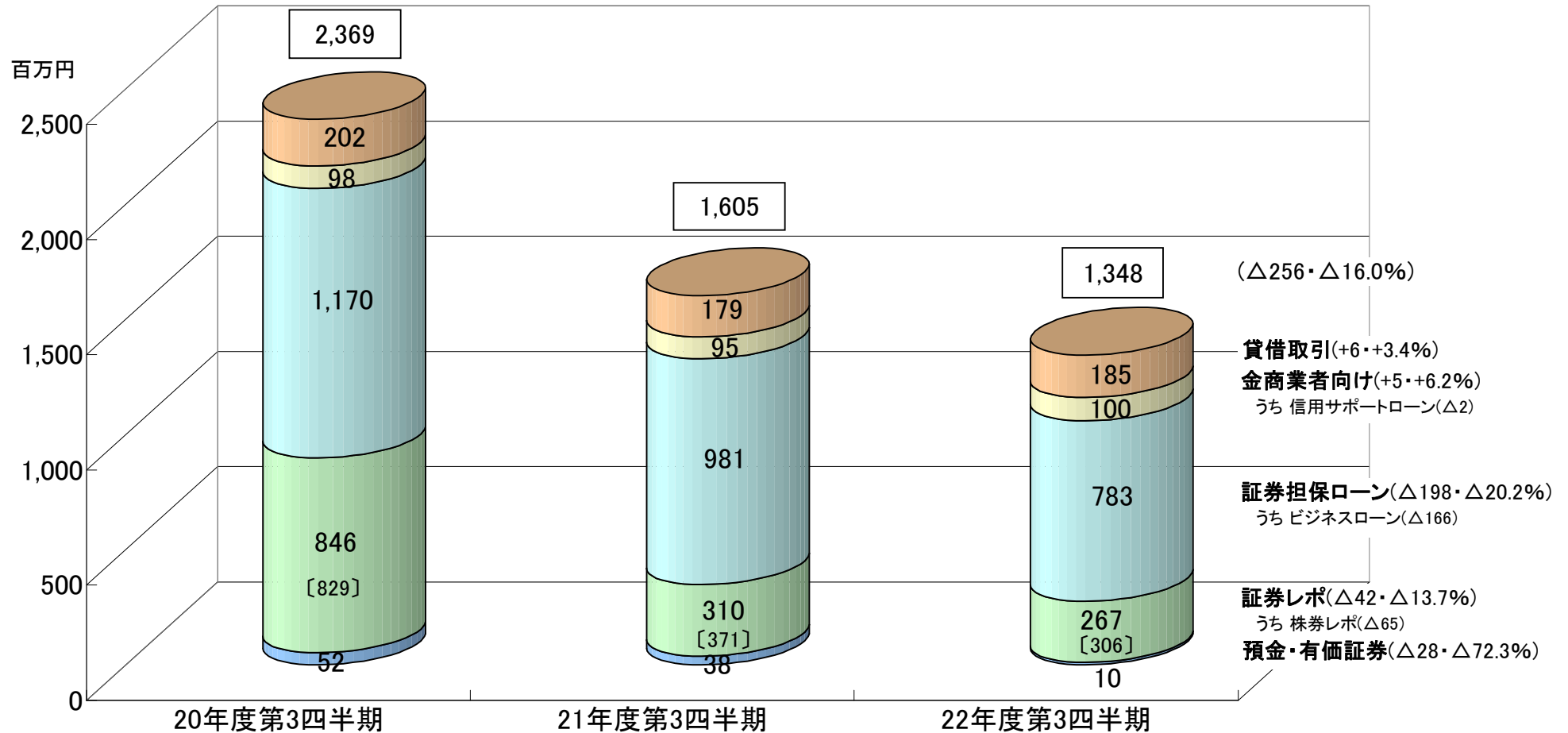
☆市場金利の低下を反映し、運用・調達利回りとも低下する中であって、リスク管理強化の観点から、運用資産内容の見直しを相対的に高利回りの資産中心に行ったことなどから、運用利回りは調達利回りを上回る低下。



(注) ()内は前年同期比較。

(4) 利鞘収入

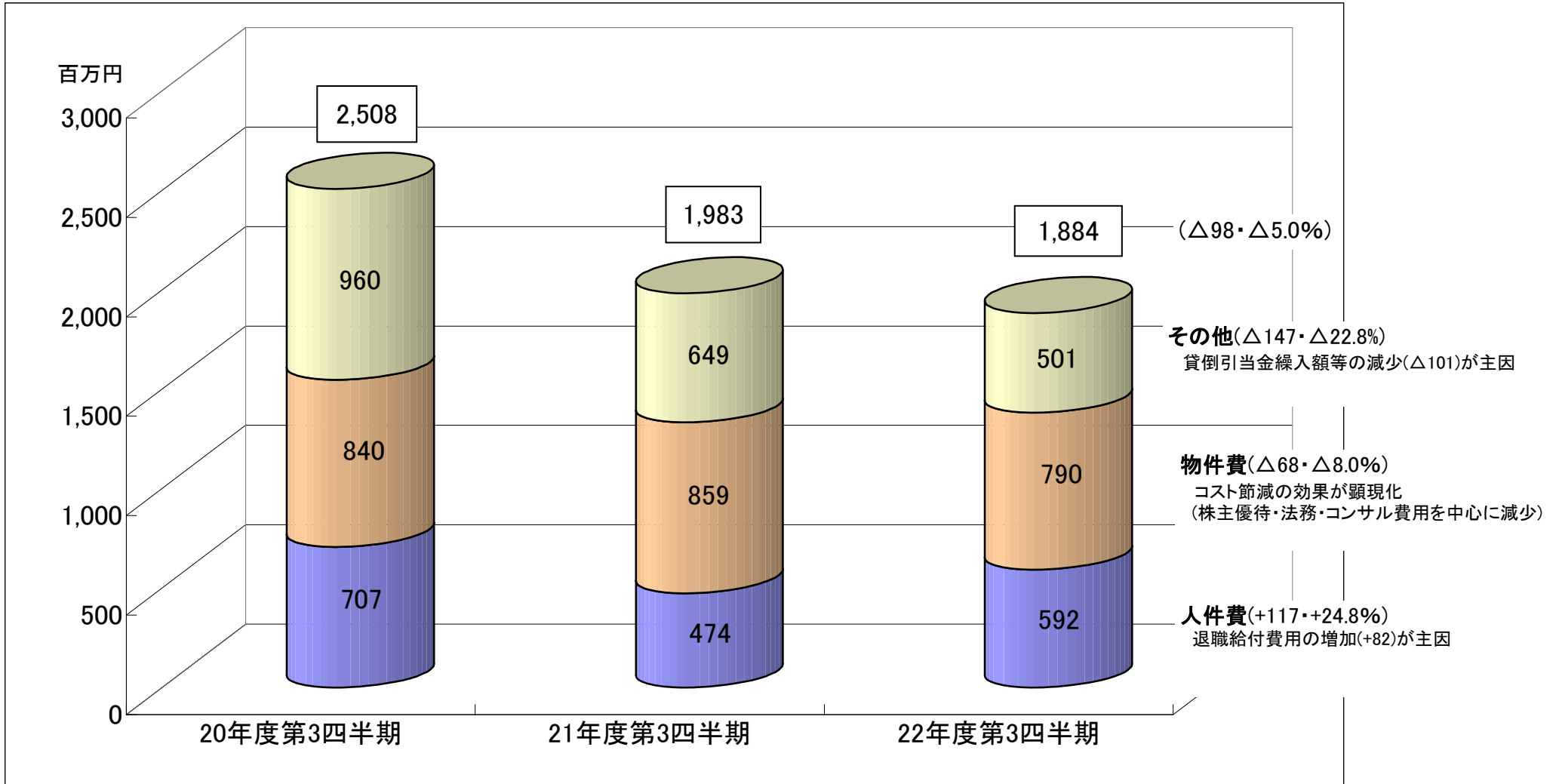
☆貸借取引にかかる利鞘収入は増加しているものの、証券担保ローンの運用残高減少を主因に減収。



(注) 1 ()内は前年同期比較。
2 証券レポの[]は、株券レポ取引の利鞘収入を内書で表示しております。

(5) 一般管理費

☆貸倒引当金繰入額等の減少やコスト節減効果により減少。

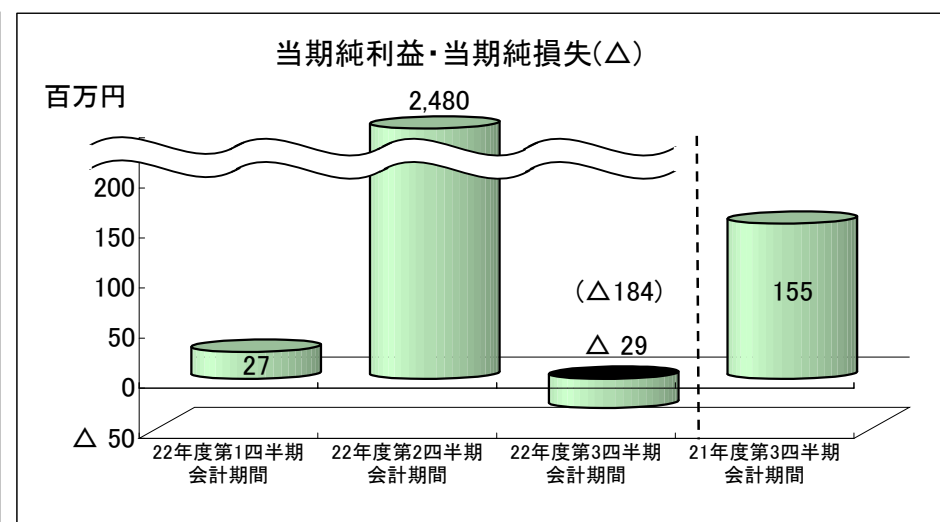
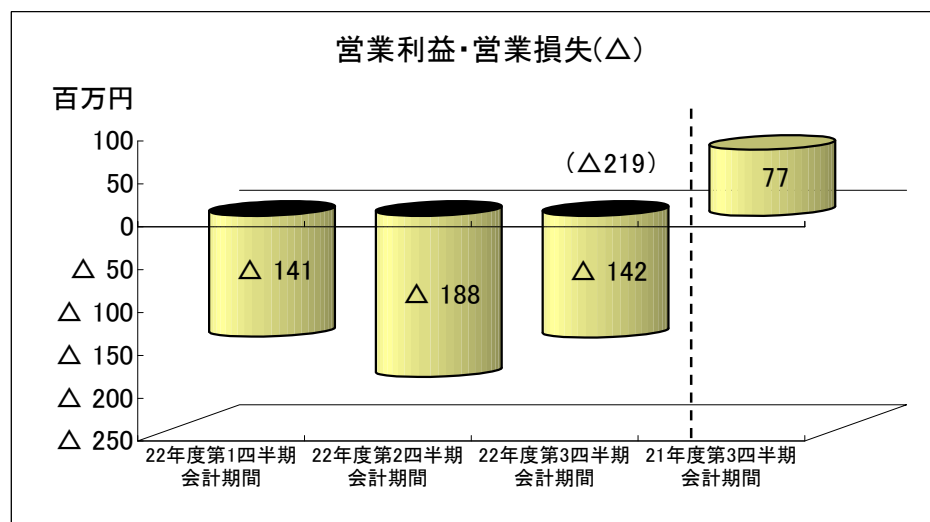
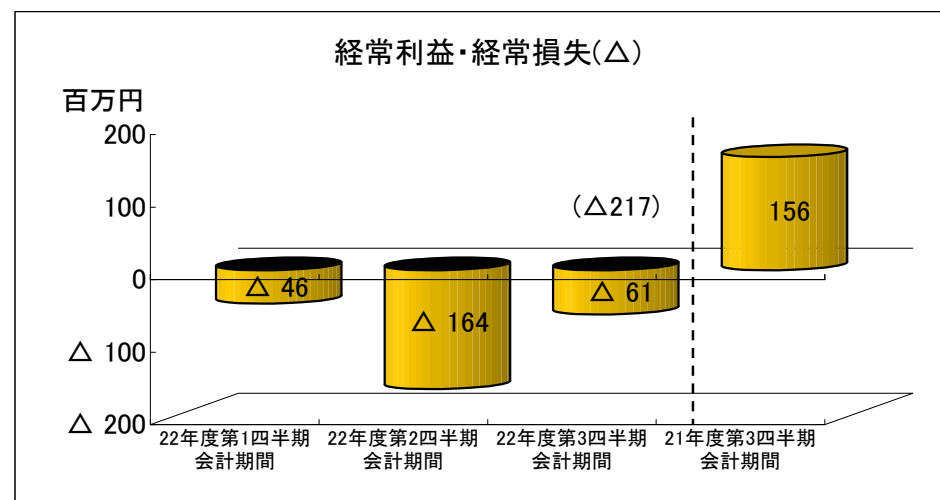
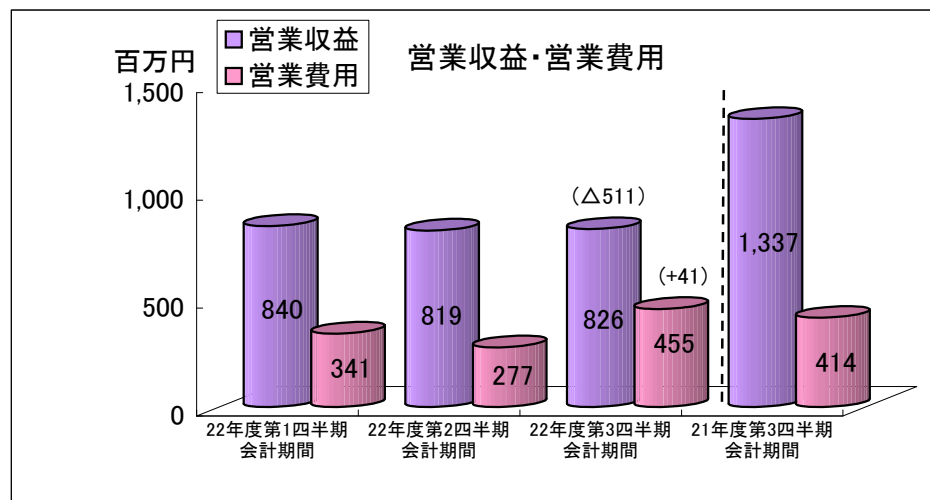


(注) ()内は前年同期比較。

<参考> 平成22年度第3四半期(会計)の概要

(1)収支状況

☆証券市場が伸び悩む中、営業・経常・当期純損益はいずれも赤字となったが、第2四半期との比較では営業損益および経常損益の赤字幅は縮小(注2参照)。

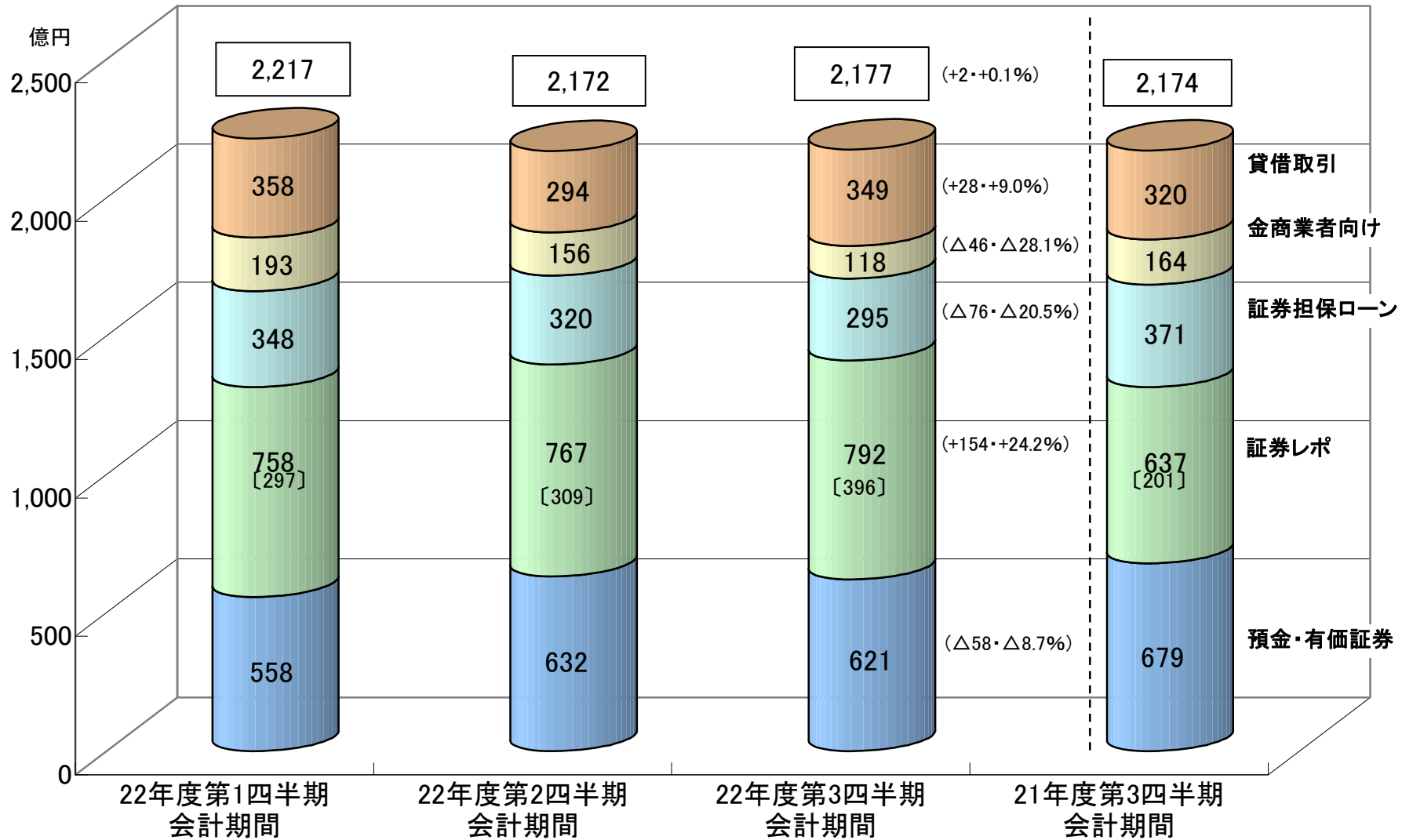


(注) 1 ()内は前年同期比較。

2 本資料における第2四半期会計期間および第3四半期会計期間の各数値につきましては、第2四半期累計期間ないし第3四半期累計期間の数値からそれぞれ第1四半期累計期間ないし第2四半期累計期間の数値を差し引いて算出しております。このため、平成22年度第3四半期会計期間の数値に関しては、貸倒引当金戻入額65百万円を一般管理費の減額効果として営業損益・経常損益に反映した数値となっております。

(2) 資金運用残高

☆新JASDAQ市場の効果もあって、貸借取引が増勢に転じているほか、証券レポも増加したものの、証券担保ローンや金商業者向け貸付金残高が減少したため、運用残高はほぼ横這い。

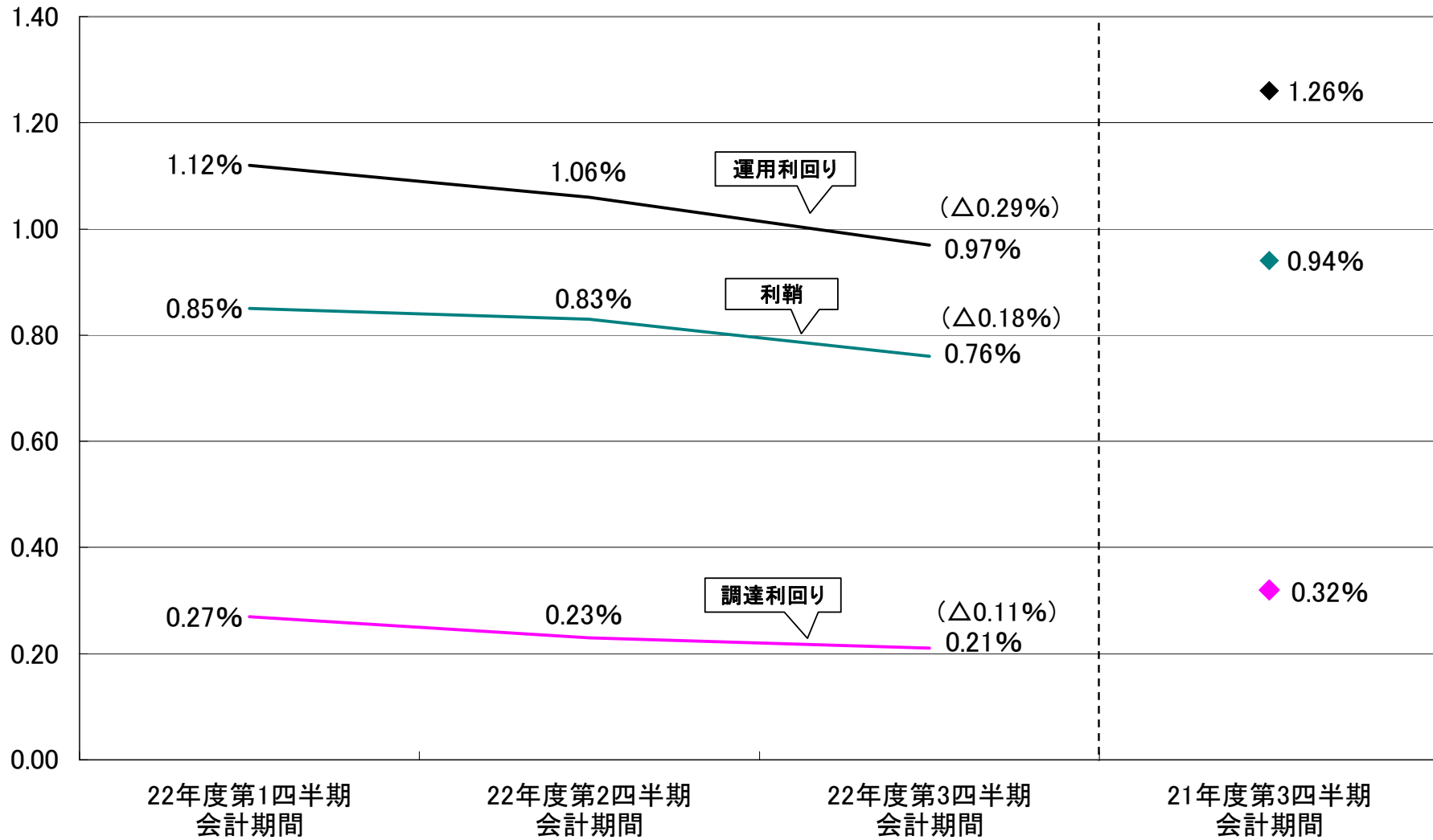


(注) 1 ()内は前年同期比較。

2 平均残高。証券レポの[]は、株券レポ取引の残高を内書きで表示しております。

(3) 運用・調達利回り、利鞘

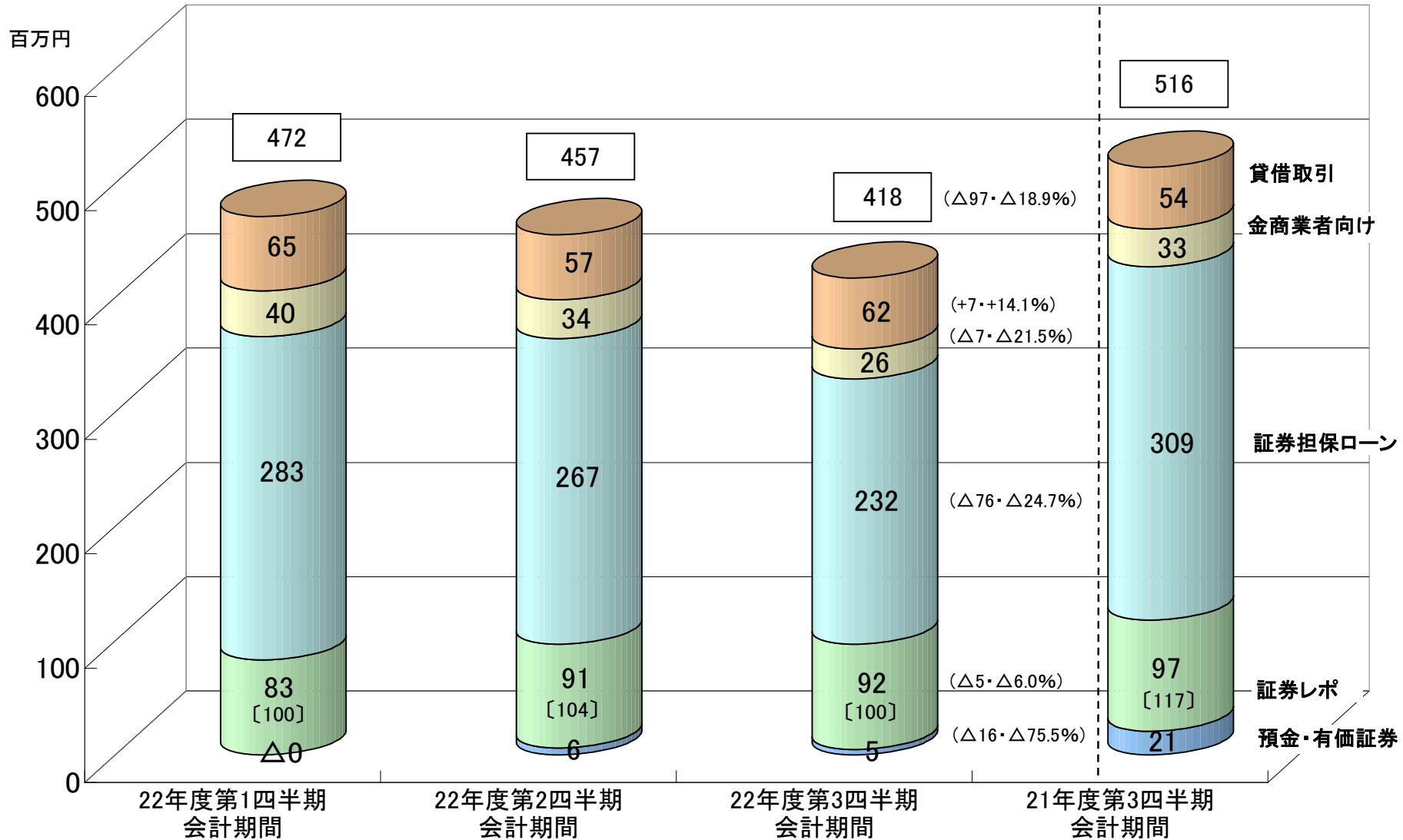
☆市場金利の低下を反映し、運用・調達利回りとも低下する中において、リスク管理強化の観点から、運用資産内容の見直しを相対的に高利回りの資産中心に行ったこともあって、運用利回りは調達利回りを上回る低下。



(注) ()内は前年同期比較。

(4) 利鞘収入

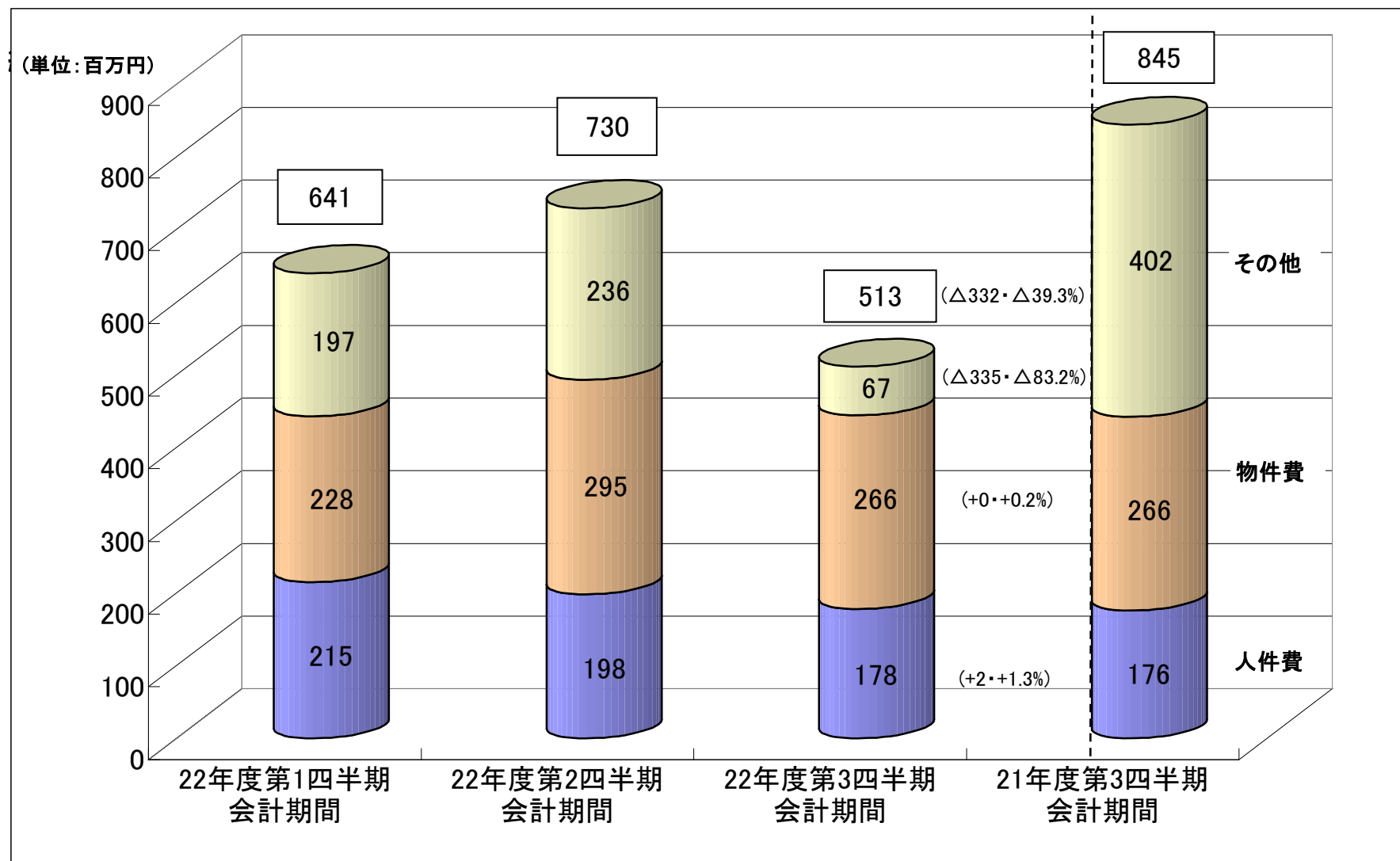
☆貸借取引に係る利鞘収入は増加しているものの、証券担保ローンの運用残高減少を主因に減収。



(注) 1 ()内は前年同期比較。
2 証券レポの[]は、株券レポ取引の利鞘収入を内書で表示しております。

(5) 一般管理費

☆貸倒引当金繰入額を中心に減少(注2参照)。



(注) 1 ()内は前年同期比較。

2 本資料における第2四半期会計期間および第3四半期会計期間の各数値につきましては、第2四半期累計期間ないし第3四半期累計期間の数値からそれぞれ第1四半期累計期間ないし第2四半期累計期間の数値を差し引いて算出しております。このため、平成22年度第3四半期会計期間の数値に関しては、貸倒引当金戻入額65百万円を一般管理費(その他)の減額効果として反映した数値となっております。